



国際基準の安全・安心なまちづくり 「セーフコミュニティ」の再認証が内定しました！



ターゲット 17.17

令和4年11月11日

郡山市市民部

セーフコミュニティ課

課長 渡辺 正樹

TEL：924-2151

SDGs ターゲット 17.17 「官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」

本市では、2018年2月にセーフコミュニティ国際認証を取得し、2023年の再認証取得に向けて取組を推進しているところですが、このたび、11月8日（火）から10日（木）にオンラインで実施した現地審査において、海外審査員より、認証のための7つの指標が満たされていると判断され、セーフコミュニティ再認証の内定を受けることができました。

審査員からは、郡山市における市民協働、企業等との連携について高い評価をいただきました。

現地審査の審査員講評につきましては、別紙のとおりです。

なお、再認証式は、2023年2月に実施する予定となっております。

<認証のための7つの指標>

- 1 分野の垣根を超えた協働による推進組織
- 2 全ての年齢・性別・環境・状況を対象とする長期的、継続的なプログラム
- 3 ハイリスクの集団・環境に着目し、弱者グループを対象としたプログラム
- 4 入手・活用可能な「根拠」に基づいたプログラム
- 5 外傷の頻度と原因を記録するプログラム
- 6 プログラム・プロセス・効果を測定・評価
- 7 国内外のセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

セーフコミュニティ現地審査「審査員講評」について

審査員講評において現地審査の結果が発表され、口頭による認証の内定となりました。
(※正式文書の交付は後日)

- 1 審査員 ミカエル・グリヴナ 氏（アラブ首長国連邦）
 ジョンイ・ペ 氏（韓国）
 マイケル・ウィルソン 氏（フィンランド）

2 審査員講評の概要

①全体を通して

- ・この5年間、新型コロナウイルスの感染や自然災害の被害に遭われ、大変である中でもSCを進め、その成果を報告していただいた。
- ・行政だけでなく、分野や組織を超えた地域の団体等が協働し、根拠に基づいた課題の設定と課題解決に向けた取組を行い、成果を出しているところが素晴らしかった。
- ・データを分析する客観的な視点と、地域の方の経験に基づいた主観的な視点の両面から活動を評価し、成果を数字で分かりやすく市民へフィードバックしながら、しっかりとPDCAサイクルを回し、前に進めていることが把握できた。
- ・郡山市は地域安全診断を2年に1回しっかりと実施しており、けがや事故の数だけでなく、アンケート調査によって市民の意識や態度を工夫して可視化している点が優れている。
- ・郡山市のSCの強みの一つは、データ収集と分析を担う外傷サーベイランス委員会の仕組み。もうひとつの強みは、立場やできることが異なる民間企業が安全なまちづくりに向けて、主体的・積極的に関わっていることである。
- ・郡山市のSCが郡山市だけで終わることなくどんどん広がっている印象を受け、それは国内外へよい影響を与えている。

②今後のアドバイス

- ・これから次の5年をどうしていくかビジョンが大切になるので、何を重点課題にするか改めて振り返り、具体的な道しるべを作るべきである。
- ・条例など法的にバックアップするものがあれば取り組みが継続しやすいと思うので、検討いただきたい。
- ・ほかにどのようなデータがあればより取組が必要な人に届くかという視点で情報を集めることや、既に持っているデータについて、そこから何が読み取れるか、もう一度別の角度から見るとよい。
- ・行政、民間、地域によるパートナーシップの基盤ができていますので、これからどう広げていくか考えていただきたい。

③現地審査の結果発表

- ・3日間の報告を通して3人の共通の判断として、郡山市は7つの指標を十分に満たすと判断した。
- ・郡山市は十分に再認証に値する取組をされて成果を出されており、国際セーフコミュニティ認証センターには、再認証を内定するというご報告したい。